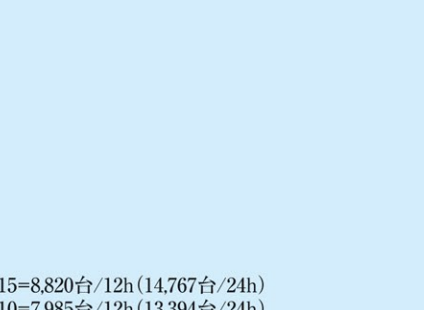




糸魚川地区橋梁架替事業平面図



塩害発生メカニズム(例)

部分拡大図

構造物の表面に塩分が付着し、コンクリート内部に浸透し始めます。

やがて鉄筋に塩分が到達し、錆が発生。錆の膨張により、コンクリートが破砕され、破片の落下や橋の強度低下を引き起こします。また、破損箇所から塩分が侵入しやすくなり、新たな錆が発生します。

塩害対策の一例

- コンクリート被り厚の増加**
コンクリートを厚くすることで、塩分が鉄筋まで浸透する時間をばすことができます。
- 樹脂鉄筋の使用**
あらかじめ防錆加工を施した鉄筋を使用することで、塩分による腐食を抑制します。
- コンクリート塗装**
コンクリート表面に塗装を行うことで、コンクリート内部への塩分の侵入を抑制します。
- 電気防食**
コンクリート内部または表面部に電極を設置し、電流を流すことで、鉄筋の錆部分で発生している腐食電流を消滅させ、錆の進行を抑制します。

凡 例	
	都市計画道路
	国道(直轄指定区間)
	国道(直轄改築区間)
	国道(県管理区間)
	主要地方道
	一般県道
	高速自動車道
	都市計画用途地域

注1)「抜本対策完了」とは、ボックス化により橋梁架替以外の方法で対策工事が全て完了した橋。
 注2)「新橋へ交通切替」とは、新橋が完成し交通切替を行っているが、旧橋撤去等の工事が残っている橋。
 注3)「橋梁架替完了」とは、対策工事が全て完了した橋。